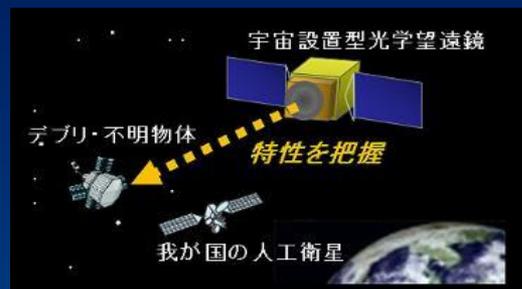


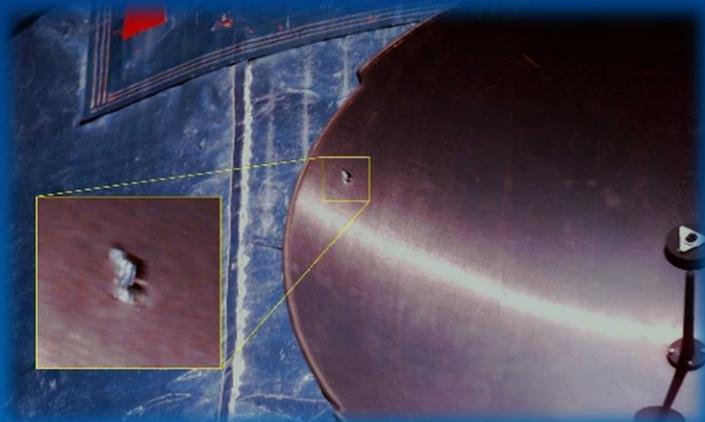
～航空自衛隊が宇宙で担う主な役割～

1 宇宙領域把握

宇宙領域把握



〈宇宙領域把握のために導入予定の各種器材〉



スペースデブリが衛星アンテナに衝突してできた穴

宇宙空間には老朽化した人工衛星の破片などのスペース・デブリ（宇宙ゴミ）が無数に存在しており、その数は年々増加傾向にあります。ほんの数mmのスペースデブリであっても、宇宙空間では**秒速 8 km**というスピード（例：東京～大阪を1分で移動する速さ）で回っているため、衝突の被害は甚大なものになります。



宇宙作戦群では、地上アンテナや宇宙空間に設置する光学望遠鏡などの各種装置を用いて、日本の人工衛星の安全を確保します。



現在宇宙作戦群は、**令和5年3月**から「宇宙領域把握」の運用開始しました。

2 JAXA等との連携

※SSA(Space Situational Awareness)
宇宙物体の位置や軌道等を把握する「宇宙状況把握」を言います。
※SOPS(Space Operation Squadron)
「宇宙状況把握」を任務とする「宇宙作戦隊」のことです。



SSA部隊 (SOPS)
(府中基地)



×

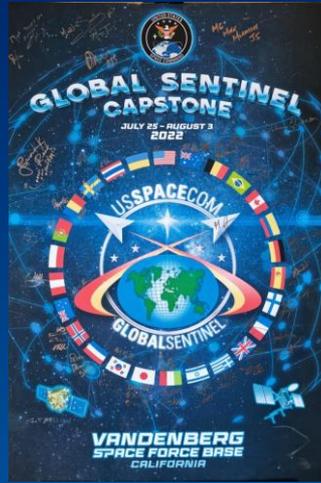
JAXA

筑波宇宙センター
SSA解析システム
(茨城県つくば市)



宇宙作戦群は、先進的な知見を有するJAXAなどの関係政府機関などと連携して「宇宙状況把握」を行います。現在は、自衛隊員をJAXAに派遣しつつ、定期的な会合を通じ具体的な連携要領を検討しているところです。

3 多国間連携



宇宙空間に**国境という概念はなく**、一国のみで広大な宇宙空間を守ることは**不可能**です。そのため多国間連携を深化させ、「宇宙状況把握」の精度を高めることが重要です。宇宙作戦群は、米宇宙コマンドが主催するグローバル・センチネル演習に継続的に参加し、多国間連携の要領や運用能力の向上を図っています。



勤務中の様子



つかの間の休息



また、カリフォルニア州にある**米宇宙コマンド多国間宇宙調整所**には航空自衛官が派遣されており、友好国との連携を深化させています。